

令和3年度 自己評価および学校関係者評価書

令和4年3月17日
函館市立巴中学校

1 本年度の重点教育目標

・主体的に自らを表現する	・よりよい人間関係を育む	・根気強く心と体を鍛える
--------------	--------------	--------------

2 本年度の取組の重点

・確かな学力の向上	・豊かな心と健やかな体の育成	・地域に根ざした学びの創造
-----------	----------------	---------------

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
確かな学力の向上	自ら学ぼうとする意欲を高める指導の工夫・改善を進める。	b	一人一台端末を活用した授業改善を進めるため、教職員で研修に努めた。日常的な利用を積み重ね、効果的な利用を目指していきたい。	A	A	便利さが取り入れられる一方で、代償として失われていくものがあることを熟考しなければならない。積み上げるべきものを軽視してはいけない。
	学校と家庭の連携を強化し、生徒の学びを支援する。	b		A	A	
豊かな心と健やかな体の育成	「ほっと（子ども理解支援ツール）」の活用により、いじめの早期発見や道德教育の充実を図る。	b	客観的なデータに基づく課題の明確化を図り、生徒指導の工夫・改善を図ってきた。SNSによるトラブルなど、情報化の進展に伴う新たな問題が生じている。1年生の早い時期から情報モラル教室やネット指導を推進していきたい。	A	A	コロナ禍での教職員への精神的・肉体的負担は極限に達している中、ネットの活用と弊害の両方に取り組む教職員の方々には頭が下がる。
	SNS等に関するネットモラル指導を行い、適切に判断して行動できる生徒を育成する。	b		A	A	
地域に根ざした学びの創造	地域人材を活用し、「地域とともにある学校」をつくる。	a	コロナ禍においても学校運営協議会との適切で効果的な連携・協働を進めることができた。HPやあ	B	B	学校・家庭・地域にそれぞれの役割がある中で、家庭が担うべきことを学校依存する傾向が年々強くなってきている。
	学校の「見える化」を推進する。	b	んしんメール等を活用した積極的な情報発信を行い、迅速かつ正確な情報提供に努めていきたい。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。